

経営比較分析表（令和3年度決算）

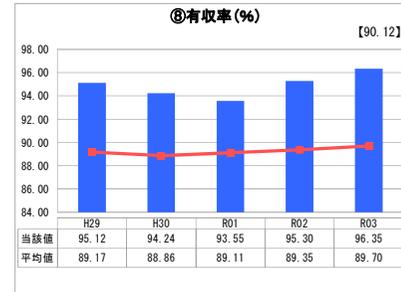
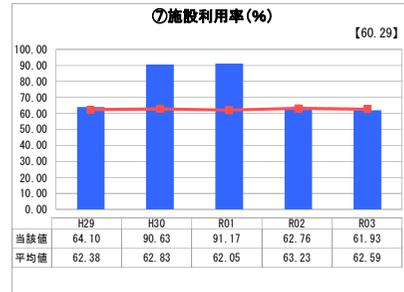
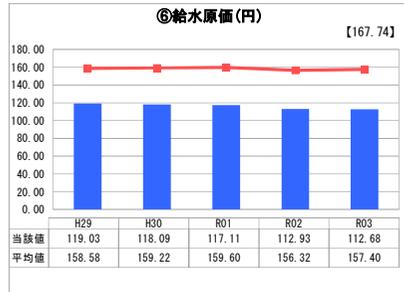
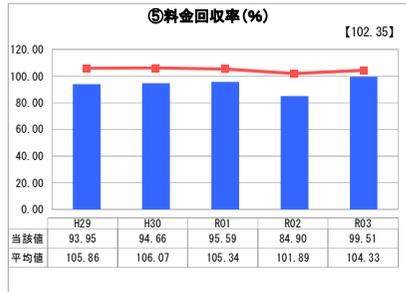
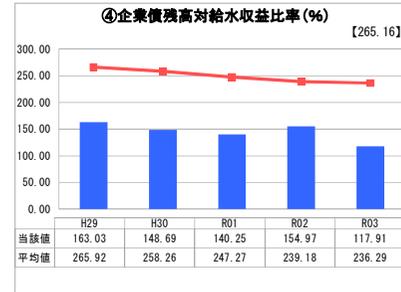
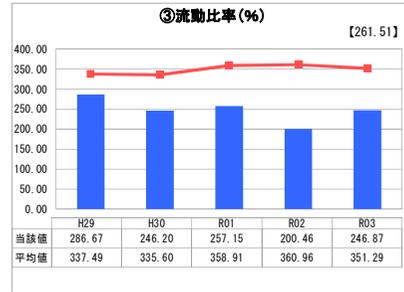
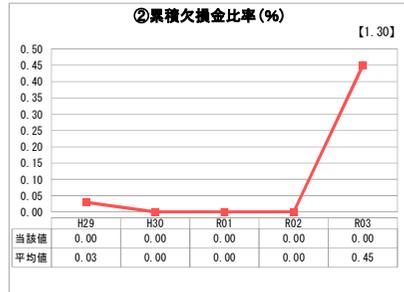
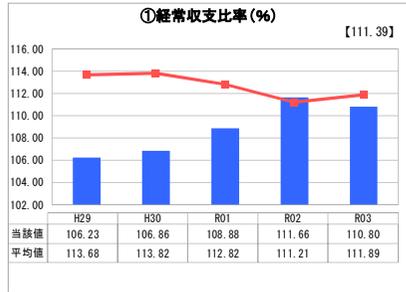
埼玉県 ふじみ野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	82.89	100.00	1,933	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
114,279	14.64	7,805.94
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
114,401	14.64	7,814.28

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
数値が100%を超えて利益が発生しているものの、類似団体平均値(以下「平均」とする。)を若干下回っています。前年度と比較して0.86ポイント取崩が減少しており、その要因は、経常収益の加入金減少と考へます。今後、施設の老朽化・耐震化への対応に備えて、財務確保が必要となるため、経費削減や給水収益の増加に向けた取り組みをします。

②累積欠損金
平成20年度以降、累積欠損金は発生しておらず、健全経営を維持しています。

③流動比率
未払金減少により、前年度から46.1ポイント増加したものの、平均を大きく下回っているため、補助金や起債等を活用して現金預金の確保を目指します。

④企業債残高対給水収益比率
平均を大きく下回り、債務残高が低く抑えられていますが、今後も施設耐震化等の計画により新たな借入が発生するため、企業債残高を適正に管理する必要があります。

⑤料金回収率
前年度比で14.61ポイント増加したものの、平均より低く、100%を下回っている状態です。その原因は節水機器の普及や節水意識の高まりから給水収益が減少傾向にあるため、料金改定を含めた適切な料金収入の確保が課題と考へます。

⑥給水原価
安定して平均より低い状態が続いていますが、供給単価を上回っていることから、収支バランスを考慮した経営を図ります。

⑦施設利用率
令和2年度に一日最大給水量(一日配水能力)を上方修正したことにより令和2年度から0.83ポイント減少しました。今後もダウンサイジングを図りながら施設更新を行います。

⑧有収率
前年度比1.05ポイント増加し、平均より高い水準で推移していますが、引き続き施設、設備の更新を進めながら100%に近づけるよう努めます。

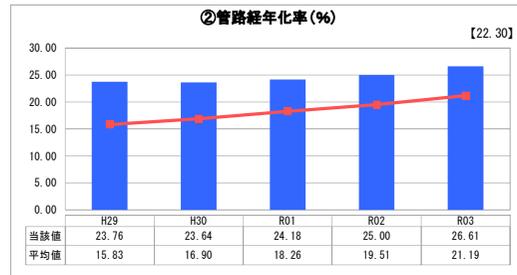
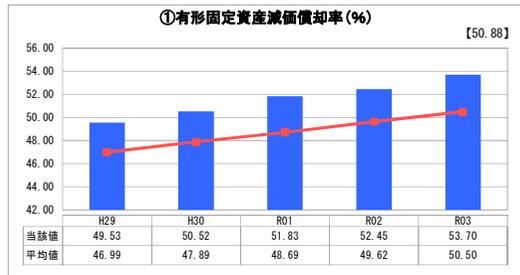
2. 老朽化の状況について

①増加傾向で推移している状態です。水道事業基本計画で定めた耐震化及び更新事業計画や、投資財政計画に基づき、適切に施設の更新を行いながら、水道事業を運営していきます。

②管路経年化率
増加傾向で推移している状態のため、水道事業基本計画及び配水管網整備計画に基づき、計画的に施設の更新に取り組みます。

③管路更新率
年度により、更新率の差が生じていますが、更新に係る費用と収益等のバランスを考慮しながら計画的な施設の更新に努めています。

2. 老朽化の状況



全体総括

現状では、健全な経営が行われている状態であるものの、収益性や料金回収率の向上に関しては経営改善の必要が考へられます。

老朽化については、経年化率が高いため、水道事業基本計画をもとに耐震化事業及び管路更新事業を計画的に進めていきます。

今後、施設の老朽化・耐震化への対応で多額の資金が必要となりますが、料金回収率が100%を下回る、逆さやの状況により、保有資産は減少傾向にあります。そのため、平成30年度に策定した水道事業経営戦略の見直しを行いながら、将来計画に合わせた水道料金の適正化について、検討を進めています。

経営比較分析表（令和3年度決算）

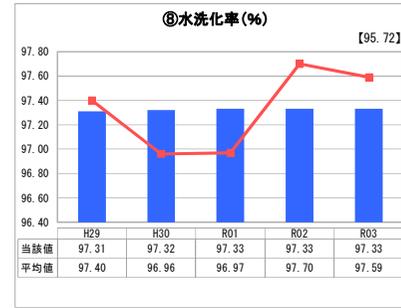
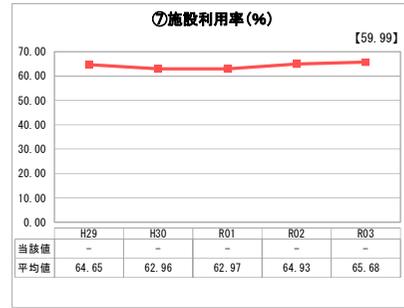
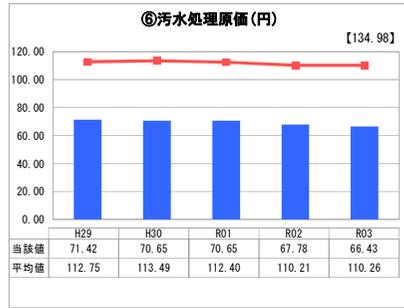
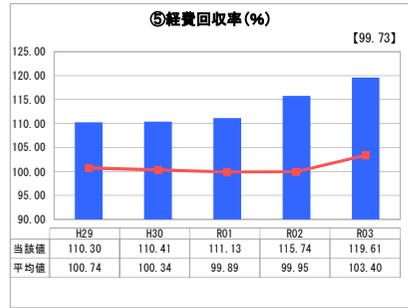
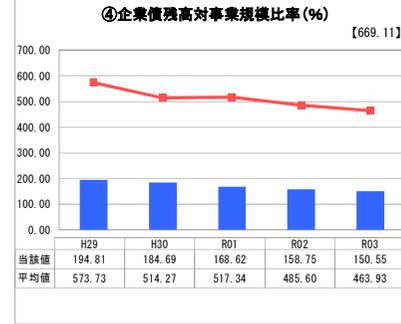
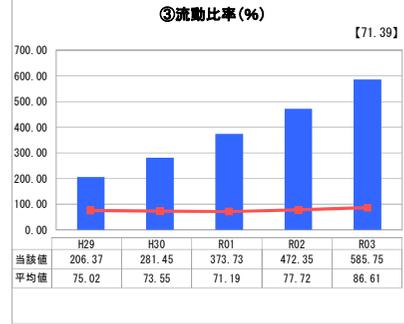
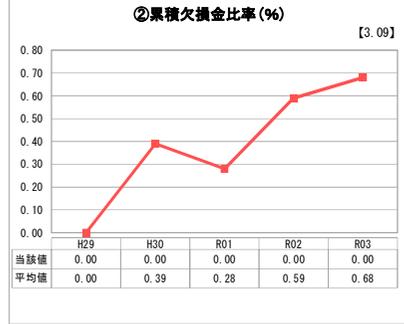
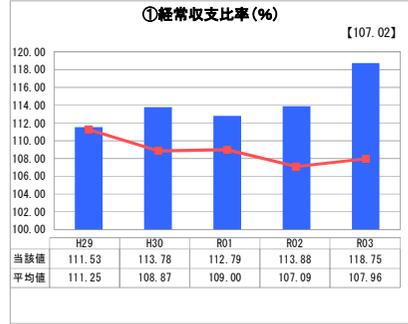
埼玉県 ふじみ野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	83.69	94.11	87.87	1,367

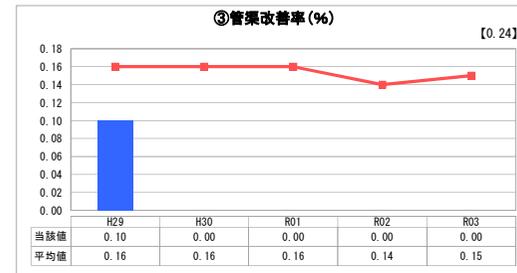
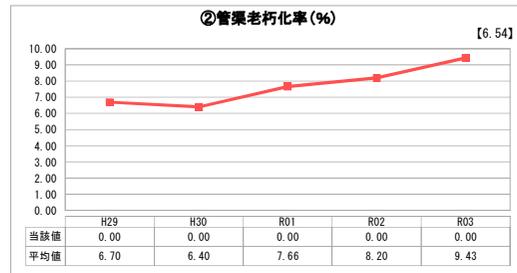
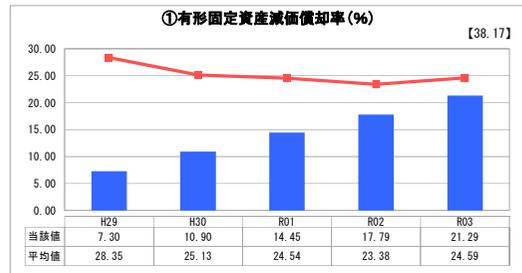
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
114,279	14.64	7,805.94
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
107,330	9.29	11,553.28

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 「経常収支比率」
100%を上回っており、類似団体平均よりも高い数値で推移しています。しかし、令和4年度から雨水貯留浸透施設の整備や汚水管渠の新規整備事業に着手していくことに加え、今後迎える管渠の更新に備えて財源の確保が必要であるため、引き続き安定的な使用料収入の確保や経費削減に努めます。
- 「累積欠損比率」
累積欠損金は発生していませんが、長期的に見ると料金収入の減少が予想されるため、注意しています。
- 「流動比率」
100%を大きく超えており、流動資産の中で大きな割合を占める現金及び預金が使用料収入により増加しているため、短期的な債務に対する支払能力については今のところ問題ありません。しかし、新規事業着手により企業借入額の増加が見込まれるため、注意をしています。
- 「企業債残高対事業規模比率」
類似団体平均を大きく下回り、過去に借入を行った企業債の償還も進んでいます。しかし、雨水貯留浸透施設の整備や、汚水管渠新規整備・更新にあたり、企業借入額の増加が見込まれるため、計画的な企業債管理を行う必要があります。
- 「経費回収率」
100%を上回り、使用料で回収すべき経費を賅うことができます。しかし、今後は施設老朽化に伴い維持管理費の増加が見込まれるため、引き続き安定的な使用料収入の確保や経費削減に努めます。
- 「汚水処理原価」
平均を下回り、他団体と比べ低く抑えることができていますが、不明水対策・接続率向上・維持管理費の削減等を進めることでさらに低く抑えられと考えます。
- 「水洗化率」
平均とほぼ同数値で横ばい状態が続いています。公共下水道未整備地区において汚水管渠の新規整備に着手しており、水洗化率の向上を見込んでいます。

2. 老朽化の状況について

- 「有形固定資産減価償却率」
平均を下回っていますが、これは平成28年度から公営企業会計に移行した影響です。建設から40年以上経過している管渠が一定程度存在するため、実際の数値より老朽化が進んでいます。
- 「管渠老朽化率」
次に挙げる「管渠老朽化率」の状況も注視しながら、計画的な施設の管理に努めます。
- 「管渠改善率」
法定耐用年数を超えた管渠は存在しません。しかし、昭和50年以降に集中的に管渠整備を行ったため、今後更新時期を迎える管路施設が急増することが予想されます。ストックマネジメント計画に基づき、適切な設備更新を進めるとともに、財源の確保に努めます。

全体総括

本市下水道事業の経営状況は、黒字が続く、短期的な債務に対する支払能力についても問題がなく、各指標の値を類似団体と比較しても、現時点では良好であると言えます。しかし、令和4年度からの大規模な雨水貯留浸透施設や汚水管渠の新規整備事業着手に加え、今後は老朽化に伴う更新事業にも着手していくため、資金需要の増加が見込まれます。

このような状況を踏まえ、平成30年度に策定した下水道事業経営戦略の見直しを行いながら、ストックマネジメント計画をもとに、適正な使用料収入を確保しつつ、経費削減を図り、計画的に投資更新計画を進め、持続可能な下水道事業運営を目指します。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。